

Step House ニュース

NO.13 may.2014



矯風会ステップハウス

Tel 03-3364-3133

Fax 03-3364-1866

e-mail k0101step@yahoo.co.jp

寄付金の送付先

郵便振替口座 00130-8-564245

加入者名 矯風会ステップハウス



Photo by ken(bond Project)

帰る家のない少女たちの安心できる居場所とは

bond Projectは生きづらい10代、20代の女の子たちの支援を2009年からしています。

活動内容は、10代から20代の女性を対象としたメール、電話、面談や出張面談などによる相談のほか、渋谷の街のパトロール。特に事情があって家に帰れない女の子たちは深夜の街を彷徨い、居場所を求めています。そういった女の子を見つけて、積極的に声を掛け、必要があれば一時的な緊急保護をして、気持ちを落ち着かせてから、

行政や専門機関に繋ぐといった支援をしています。

言葉で書くと簡単ですが、実際には繋ぎたいと思う少女ほど、支援を受けることを拒み、スムーズにいかないことが多いのが現状です。なんとかしたい女の子と、支援したい私たちの間には埋められない溝があることに気づかされる日々ですが、時間をかけて「居場所」を作っていけたらと思っています。

bond Project 橘ジュン

橘ジュン(たちばな・じゅん)

NPO法人bond Project代表。『VOICES MAGAGINE』編集長。

1971年千葉県生まれ。10代の終わり、レディース・チームのリーダーとして取材を受けたことをきっかけに、ビデオ・レポーターやルポ執筆の活動始める。2006年に街頭から声を伝えるフリーペーパー『VOICES』を創刊。これまで少女たちを中心に3,000人以上の声を聞き、伝え続けてきた。メールやウェブサイトにも少女たちからの声・相談が多数寄せられている。

2009年、NPO法人BONDプロジェクトを設立。「聴く・伝える・繋げる」の活動をさらに広げている。

著書に『漂流少女』(太郎次郎社エディタス)

私は、10代20代の生きづらさをかかえた女の子の支援をしているNPO法人 bond Projectという団体で活動しています。日々、声を届けてくれる女の子はいろんな悩みを抱えています。「これだからツライ」とはっきりと理由や原因を言えるわけではなく、いろいろな状況や問題、気持ちの葛藤の中で「死にたい」「消えたい」などと、キモチを表現してくれ、それを伝えてくれます。



Photo by ken(bond Project)

bondに声を届けてきてくれる女の子も、安心できない場所にいる子や、家に居場所が無い子がいます。親との関係が上手くいかなかったり、虐待されている子、親に本当の気持ちを言えずにいる子、居場所がない子、家に帰れず夜の街をさまよっている子たちです。「安心できる」という感覚を知らず、そこが「当たり前の日常」というふうに感覚がなっている子がいます。そんな子が、夜、安心して眠れる場所が、必要だ、知ってほしい、と思っています。

今回ステップハウスを見学して、こんなところをもっとあったらいいな、もっと女の子に教えたい、知って欲しいと、感じました。



今回、ステップハウスを見学して感じたことは沢山あったけど、一つは、みんなが集まるお部屋があって、イベントと時々、そこでしている様子の写真が、そのお部屋の壁に貼られていたのを見て、一時的な場所（お話を聞いたところ、半年から1年）ではあるけれど、一緒にご飯を食べたり、何かを一緒にしたり、時間を共有したり、此处は、ここにいる子達の、空間的にも、心のより所にも、居場所になっているんだなと思いました。

ここで1人、女の子の話をさせて下さい。

ある、地方に住む女の子は、親との関係がうまくいかず、その日、口論をし、家出をしました。その子は、家に居場所がないと感じていたと話してくれました。その子は、地元で家族以外にも、人間関係が、上手くいかず、頼れるところがどこにも無く、知り合いがいる、というのと、東京にはホームレスが沢山いるところを見ているため、自分もいざとなれば出来るだろうと思い、少しのお金とキャリーケース一つを持ち夜行バスに乗り、東京に出てきました。

夜行バスなので、朝の5時過ぎに新宿に到着したのですが、1度、行った事のある、歌舞伎町に、行くあても無くとりあえず歩いていたのですが、男の人に声をかけられ、「すむ場所と仕事紹介するよ」と言われ、困っていた女の子はその人のことをいい人だと、思ったそうです。

ですが、その人は、風俗のキャッチの人でした。ですがその女の子は、それを解っていても、他に頼る事が出来る人もいないため、その人について行き、たどりついた先は、事務所のようところで、そこには、ベッドがあったそうで、練習だからと、しなくてもいいことや、嫌がることもされました。その後、ジュンさんと連絡を取り、逃げ出す事が出来ました。



このように、夜の街をさまよって、したくないことをして、自分を自分で傷つけている子も、少なくありません。ですが、帰る場所も、安心して夜眠れる場所も無い女の子は、夜の街に頼り、たどりついてしまうのです。

私は風俗などをする事がダメだとは、思っていない。女の子がそれをする事で、いやな思い、怖い思いをしたり、危険な事にあわなければ、傷つかなければ、いいなと、思っています。

だから、ステップハウスのような、安心できる、守ってくれる人がいる居場所を、もっと、女の子に知ってもらいたい、思いました。そのために何が出来るか、今後もっと考えて、行動に移していきたいと思いました。

bond Project 高井美穂

ステップハウスを支えてくれる皆さん

ステップハウスには、長年に渡り、入居者さんたちを支えてくださる方々があります。

今回は、日本語教室担当の宮澤春美さんに、2013年12月に天に召されたオイさんとの思い出を、そして、CSR(企業の社会的貢献)としてお力をいただいているUSB証券さん、そしてあたたかいご支援をいただいた皆さんを紹介します。



オイさんと日本語教室



オイさんと私が出会ったことからステップハウスの日本語教室が始まりました。それは2006年6月でした。

彼女は日本に10年生活して会話はいくらか出来ましたが、読み書きは学んでいません。今後も日本で生活するには、名前、住所等が書けた方がよいので週2回宿直の前後で始めました。

最初日本語の会話を楽しみ、ひらがなの五十音から始めました。彼女も読めるようになりたいという希望があり、繰り返し読んだり書いたりしました。

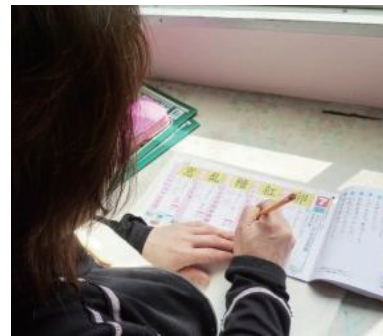
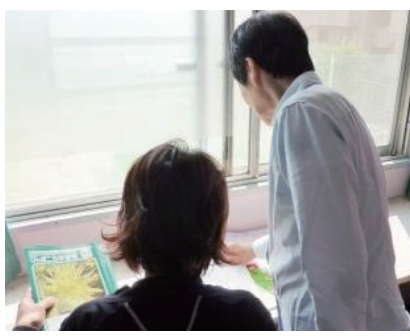
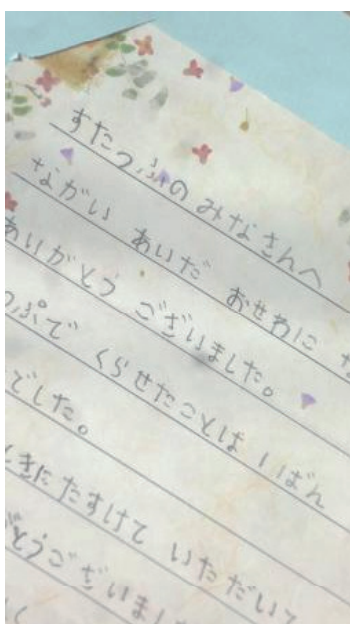
オイさんはタイの方でひらがなを覚えるのは大変だと思いましたが、彼女は頑張り確認テストに合格、私もとても嬉しかったです。

五十音が終わり、9月から一行日記を宿題にしました。「わたしは べんとう たべました。」「わたしは はなすきです。」と書かれていました。ある時は裁判のことが気になり日記が書けなかったこともあります。彼女の胸の内はどんなに思い悩んだことだろうと推察されます。

退所近くにオイさんに「よかったことは何。」と伺いました。「ステップで過ごせたことが一番幸せだった。大変な時 助けてもらってありがとう。」と涙ながらに話しました。私も思わず涙が出てしまいました。

退所後もステップで日本語教室を継続、草餅を持って来て下さったこともあります。ステップハウスの日本語教室は8年間で参加した人は7人で370回(2014年4月末現在)行ったことになります。現在まで7年間継続している方が1人います。

ステップハウス宿直ボランティア 宮澤春美



暮らしを快適にする改修・ご寄付

- 社会福祉協議会と愛恵福祉支援財団から支援をいただき、給湯器を取り替えることができました。
- 財団法人昭和池田記念財団からボイラー工事の助成をいただき、洗面所でもお湯が使えるようになりました。
- 電子レンジのご寄付をいただきました。



日常を支える衣料と食品

- UBS証券株式会社からダンボール約200箱分の衣料と食品の寄付をいただき、女性たちの支援に役立てています。





ステップハウスは日本社会の縮図

ステップハウスは、DVや親の暴力等の被害にあった方などのための中・長期シェルターです。女性が生活する公的施設には、「婦人保護施設」「更正施設」「母子生活支援施設」等がありますが、ステップハウスは、公的な制度の狭間におり、これらの施設の利用が難しく、最も支援が不足している方たちが入居しています。過去5年間(2009年4月-2014年3月)にステップハウスを利用した女性たち149名の状況には、日本社会で女性が生きていく上での課題が凝縮されています。

入居理由から見た「女性の生きづらさ」

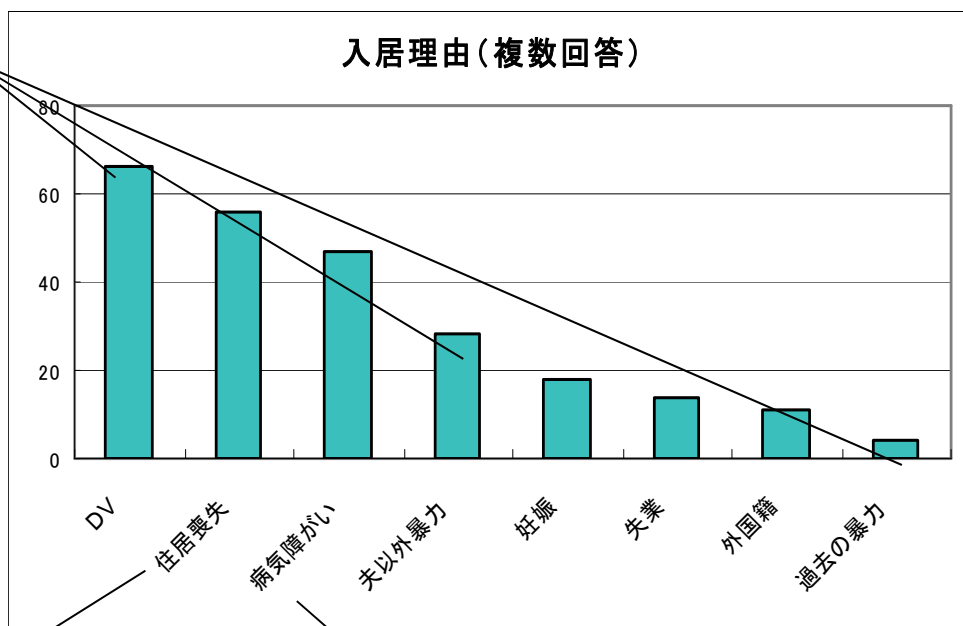
【多くの女性が暴力に遭う】

2013年に警察に届けられたDV件数は49,533件、ストーカー件数は21,089件と、過去最多です。そして6日に1人が、DVで命を奪われています。内閣府の調査によると、異性から無理矢理性交された経験が「あった」と回答した女性は、7.7%にのぼります。

【暴力や失業で住居を失う】

DV、虐待、つきまとい、自宅でレイプに遭うこと等は、安心の場であるはずの住まいが、暴力の場に変わることです。身の安全を確保するために、女性たちは自宅を出る選択をせざるをえません。また解雇や、妊娠による就業困難等、想定外の失業で、家賃を支払えず住居を喪失することもあります。2013年の女性の完全失業者は98万人。うち3ヶ月以上失業状態が継続している方が61%を占めます。

入居理由(複数回答)



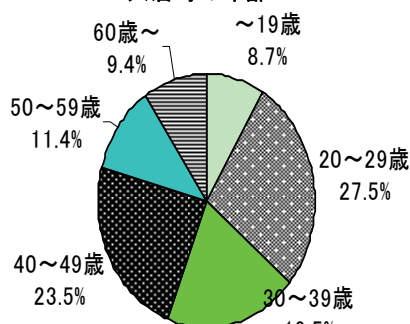
【障がいが見過ごされる】

内閣府の統計では、現在障害者手帳を持っている日本人は、約6%です。しかし養護学校が義務化されたのは1979年。たった35年前にすぎません。さらに、発達障害(自閉症・学習障害・アスペルガー症候群・等)について法制度化されたのはわずか10年前。学齢期を終えている人々が、自らの障がいを経験し、支援につながることは、非常に困難です。

【ようやく支援につながる】

警察にDVを届け出た方の11.3%が、60歳以上です。DV法が成立して13年。自らのDV被害に気付く人が増えています。「子どもが大きくなるまでは」と我慢し続けた方もたくさんいます。

入居時の年齢

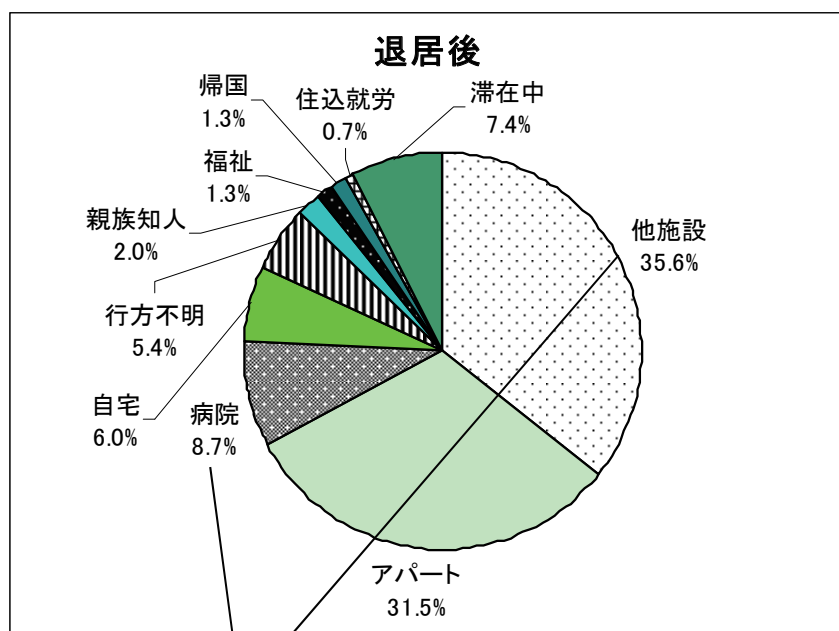


法からこぼれる「世代」

【児童福祉法で対応できない】

子どもへの支援の中心となる児童福祉法は、18歳を越えた子どもを対象にしていません。また、親と暮らせない子どもが生活する児童養護施設では、高校生の受け入れは非常に難しい状況です。

退所後の行き先に見る「ちょっとした支え」の不足



【施設を巡る女性たち】

日本には、単身女性を対象とした、一定期間入居できる公的施設は、婦人保護施設のみです。その他の施設は入居期間が半年～1年程度に制限されています。また、障害のボーダー（IQ70～79等、障害者手帳取得基準をわずかに上回る）の方への公的支援がありません。「ちょっとした支え」があれば一人で、もしくは子どもと暮らせるにも関わらず、その「支え」がないため、施設入居を余儀なくされたり、母子分離せざるをえない方もいます。



【教会の話は、私にはちょっと難しいけどね、でも楽しいです。】 ～ステップハウス卒業生ちひろさんへのインタビュー～

スタッフ:ちひろさんがアパートに行かれて3年ですね。

「最近、おにぎりを作って公園に出かけるのが楽しみ。お散歩友だちも出来たし、リューマチだから前ほどは長時間歩けないけど、やっと1時間位歩くのが日課になっています。それと雪の日以外休まず教会に行っています。2年前に教会で洗礼を受けました。」

スタッフ:ステップにいらっしゃるときおそうじをよくしていただきましたね。

「自分のお部屋ができたことがうれしくて。私そうじ大好きでしょ、お部屋も毎日乾拭きしているの。自分の家だもの。気持ちよしたい。家に来るケースワーカーさんが『いつ来てもきれいだ』って、トイレや下駄箱の中まで見るのよ(笑)。病院の先生も『3年間、毎月ちゃんと通院しているあんたはえらい!』って」

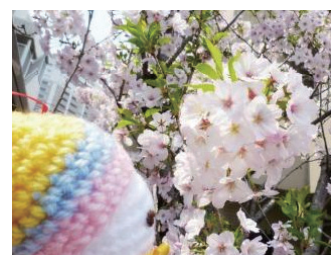
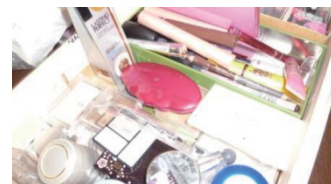
スタッフ:ステップではメークレッスンも欠かさず参加してくれましたね。

「私60歳で初めてお化粧したでしょ、うれしくてその日は顔を洗わなかった。先生に教えてもらったこともちゃんと続けているのよ。こういう場所があるって知らなかったから、お金もなく、病気で働けないし、住むところもないって相談に行った時、婦人相談員さんが、『今夜からご飯が食べられて、ゆっくり眠れるところを探しますからね』って言ってくれたのよね。」

スタッフ:今、何か楽しみにしていることはありますか。

「この間掃除機と、炊飯器が壊れちゃってね、でも1万6千円貯まる貯金箱で貯金して買いました。出かける時も千円しか持たないと無駄遣いしないから(笑)。今は事情があつて娘と会えないけど、会える日を楽しみにしているのよ。」

～ちひろさん、お話を聞かせてくださってありがとうございました。
娘さんに早く会えるように私たちも願っています。～





ステップオリジナル！心身回復応援プログラム

ステップハウスでは、入居中、心身をリフレッシュし、退所後の自立に向けた力を養うために、様々なプログラムを実施しています。どのプログラムにも、講師のあたたかい想いが、たくさん込められています。

2013年度は6つのプログラムを計28回実施しました。

トールペイント



2013年度は2回開催しました。
講師は友永さんです。
悩みやイヤなことを忘れて、細かい作業に集中、没頭！作品が完成してますます幸せな気持ちに。

身の回りのものでプチ贅沢♪

メイク



2013年度は8回開催しました。
講師はメンタルケアメイク21の田島さんです。
メイクスキルだけでなく、自分を慈しみ、自分の大切さを実感。

本来の良さを倍増させよう♪

ヨガ



2013年度は10回開催しました。
講師はボランティアの細田さんです。
自分の身体の状態を知ること、心身がつながっていることを理解し、ゆったりとした気持ちに。

カラダを動かしココロも整える♪

手芸・折り紙



2013年度は3回開催しました。
手芸講師はボランティアの津端さん、折り紙は職員が担当しました。
同じものを作っても、一人ひとりの個性が出る、味のある仕上がりに。

何でも自分で手作り♪

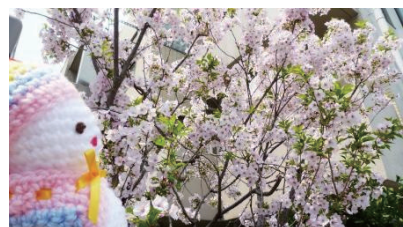
料理



2013年度は2回開催しました。
講師はボランティアの津端さん、そしておにぎりつくり隊です。
普段は苦手な食材も、みんなと一緒に食べられる！

みんなで作って食べるとおいしい♪

ウォーキング



2013年度は2回開催しました。
近隣の公園等に足を運びます。
1人で外出するのは難しくても、みんなと一緒になら安心。美しい自然に触れて、心身ともリフレッシュ。

ワクワク外出しよう♪

護身術・“NO”ワークショップ

4月、利用者さんに護身法を実施した。タイトルは「“NO”ワークショップ」。まずは様々な場面で(自分の気持ちにNOだという前提で)誘いやお願いを断るロールプレイ。このやり取りは断るための具体的なスキルを学ぶだけでなく、普段のコミュニケーションの方法が表れるので、自分のクセに気付いたり、なぜそのやり方をしているのか等を考えるきっかけにもなる。そして嫌なことには嫌だと言っても良いということや、自分の安全・安心を大事にして良いことを学ぶ。そして実践。姿勢から始まり、ターゲットにされにくい歩き方や、危険な距離など、日常生活ですぐに使える基本的な実技を学ぶ。

参加した感想を聞いてみた。「自分が今こういう状況にあるのは、NOが言えないからだ」「相手が傷付くと思っていたが、はっきり断っても嫌な感じはしない」「知らない人には断ってきたが、内の人には出来ないなあとつくづく思った。友達・近所の人・家族にNOを言うのが必要」「長年コントロールされていたのが分かった」等々。

護身イコール武道的な技、ではない。現実問題として多くの女性が経験する、関係性のある相手からの侵害や暴力に注目しなければならない。最終手段として武道的な技が必要なこともあるが、そういった状況になる前に出来ることがある。危険を認識する能力を磨いたり、守るべき大切な自分であるという意識をもつことが、女性の護身には必要である。

ステップハウス宿直ボランティア・インパクト東京代表 森山奈央美

女性が置かれた境遇への理解を進める取り組み

ステップハウスでは、多くの困難を抱えてこの社会を生きていく女性たちへの、支援の輪を拡げていくために、様々なかたちで、情報発信の場を設けています。見えなくされた課題を顕在化し、多くの人と想いを共有していくことが、女性の人権を保障し、平和な社会を実現する原動力になります。



啓発活動

私たちが会ってきた女性たちの現状を伝えていくために、イベントを主催したり、講演依頼を積極的にお受けしています。

【講演実績】

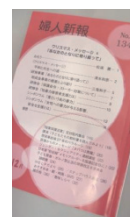
- 「あなたのとなりに寄り添って」第1回シンポジウムにて現場報告
(2013.6.29開催/主催: 日本キリスト教婦人矯風会)
- 「シェルターから見える女性たちの現状～暴力被害女性に寄り添うこと～」にて講演
(2013. 7.5開催/主催: 矯風会信州部会)
- 「あなたのとなりに寄り添って」第2回シンポジウムにて現場報告(2013.9.28開催/主催: 日本キリスト教婦人矯風会)
- 「教会でDV被害相談を受けたら」にて講演
(2013.10.30開催/主催: 日本バプテスト神学校)

■講演のご依頼・お問い合わせ:

矯風会ステップハウス
Tel 03-3364-3133

「あなたのとなりに寄り添って」報告書

2013年度 (財)日工組社会安全財団 助成事業「あなたのとなりに寄り添って」研修会・シンポジウムの報告がまとまりました。各講師のお話の概要も掲載されています。ぜひお買い求めください。



(『婦人新報』2013年12月号 1冊291円)

【研修会・シンポジウム概要】

- 「保護命令・ストーカー対策について」(打越さく良さん)
- 「愛という名の暴力」(信田さよ子さん)
- 「性暴力被害者支援とは」
(小竹久美子さん/中野宏美さん)
- 「女性への暴力が与える影響、安全な支援とは」
(竹下小夜子さん)

■ご注文・お問い合わせ:

日本キリスト教婦人矯風会事務局
Tel 03-3361-0934
ウェブサイト <http://kyofukai.jp/contacts>

ステップハウスの3つの役割

STEP・・・女性たちの「Safety(安全)」「Trust(信頼)」「Equality(平等)」「Power of Recover(回復の力)」

安心できる 居場所の提供

暴力や失業等に伴う住居喪失、児童福祉法では支援しきれない10代後半の子どもたち、DV防止法では対応できない恋人からの被害も多いです。法の下での支援が少ない女性たちに、心身の安全が確保できる「居場所」が必要です。

暴力被害からの 心の回復のサポート

2000年の開設以来、ステップハウスを利用した女性は404名。そのうち夫や恋人からの暴力被害は199人(49%)、親やきょうだいからの虐待被害も52人(13%)にのびます。暴力経験から回復するためのサポートが求められています。

新しい生活に向けた 準備のサポート

仕事を辞めざるをえなかった方、家族を頼れない方、障がいを持ち生きていく方がたくさんいます。退所後の自立した生活には福祉・医療・教育・司法等、様々な支援がつつがり、本人を中心にしたサポートが不可欠です。



↑ステップハウスを応援してくださる方が
作ってくださった「みなちゃん」

ステップハウスを応援してくれる方、大募集！

ステップハウスは、行政からの補助金は一切ありません。入居者からの利用料と、皆様からの寄付だけで運営しています。困難な状況に置かれた女性たちのこれからの人生を後押しするために、ご支援をお願いします。

こんな支援を大募集しています

矯風会バザー



2013年度は2回開催、売上の総額は547,196円になりました。行政からの補助金のない私たちにとって、バザーは大切な収入源です。UBS証券をはじめ、多くの皆様からの献品で、成り立っています。衣服の仕分けや値札付け等の事前準備、当日の販売は、「かりすの会」をはじめ、ボランティアの方々が担ってくださっています。

衣服と当日のお手伝い、大募集！

洋服ポスト



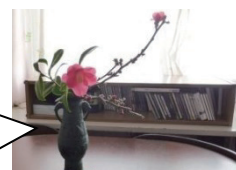
2013年10月から毎月開催しています。着なくなった衣服や、使わなくなった小物等を回収し、経済途上国に送っています。途上国の女性たちの雇用の創出にもつながっています。洋服1kgあたり10円が、私たちへの寄付になります。半年で集まった衣類は2.4t、寄付総額は19,836円になりました。

衣類と当日のお手伝い、大募集！

日々の営みを支える

- 日勤・宿直（日勤：土日祝日の9時～17時／宿直：17時～翌朝9時）
※通常夜間は23時から翌朝7時まででは休めます
- クラフト、スロージョグなど、入居者さんと楽しめる技をお持ちの方
- お掃除、洗濯・アイロンがけも助かります♪

ボランティアさんが
生けてくれた花。
入居者さんから
「いつもありがとうございます」
の声が届いています。



寄付、衣類・食料等送付、ボランティア希望等連絡先

Tel 03-3364-3133 Fax 03-3364-1866 e-mail k0101step@yahoo.co.jp

【寄付金の送付先】 郵便振替口座 00130-8-564245 加入者名 矯風会ステップハウス

【14年目の春】 ステップハウス施設長 松浦薫

ステップハウスは開設から14年目を迎えることができました。女性たちの生活をサポート下さる皆様のおかげと思い感謝申し上げます。日々シェルターで出会う女性たちは、暴力被害によって心の傷を負っています。しかしそのつらい経験をまさにステップにして新しい一歩を踏み出していきます。回復とともに成長される姿を私たちに見せてくれるのです。bond Projectは帰る家を持たない少女たちのセーフティーネットです。今日も街を彷徨う少女たちがいます。私たちはこの現状から目をそらすことなく、ステップハウスができることを見出していきたいと思っています。

